

海日生華/沈曾植翁没後百周年記念

日中書道交流展 第九回翰墨書道会展



蘇士澍題字《海日生華》

日中国交正常化 50 周年の今年、近代中国の著名な儒学者・書家である沈曾植翁（1850—1922）の没後 100 周年でもあります。

沈曾植翁は当会郭同慶会長の恩師・王蘧常先生の師匠であり、当会の「源流」と位置付けられます。そこで当会では、沈曾植翁の没後 100 周年を記念した展示会を開催することといたします。併せて日中国交正常化 50 周年を記念し、日中間の書道交流や相互理解の促進に貢献したいと思います。

会期：2022 年 10 月 11 日（火）～14 日（金）

会場：中国文化センター（港区虎ノ門 3-5-1 37 森ビル 1 階）

主催：翰墨書道会（日本王蘧常先生顕彰会）、中国文化センター

協力：芸術新聞社

後援：中国駐日大使館文化部、日本アジア共同体文化協力機構、
日中文化交流協会、東京華僑総会、日中関係学会、
全日本華人書法家協会、杭州金石全形拓非遗保護発展中心、蘭亭書会、
中文導報、上毛新聞社

入場：無料（ご自由に出入りできます）

交通：日比谷線「虎ノ門ヒルズ」駅 A2 番出口より徒歩 2 分。銀座線「虎ノ門」駅 2 番出口より徒歩 7 分。

開催時間

11 日 13:00～17:30

12 日 10:30～17:30

13 日 10:30～17:30

14 日 10:30～13:00

*翰墨書道会の詳細は、右のサイトをご覧ください。 <https://kanboku.web.fc2.com/>

*コロナ禍につき、開幕式は行いません。また、ご入場の際に検温、消毒、マスク着用をお願いすることになります。また展示会中は、ドアの適宜開放・換気にご協力をお願いいたします。



沈曾植：清末民初、「中国大儒」と称される。
(1850 年 4 月 11 日～1922 年 11 月 20 日)

清末民初の官僚・学者、詩人、書法家。字は子培、号は巽齋または乙盦、晩年は寐叟と号した。儒学・遼金元史・法律学・音韻学・地理学・仏教学に精通し、能書家としても知られていた。「中国大儒」（中国で広い学識を持つ優れた学者）とも称されている。書法碑帖から広く取り入れ、漢の隸書、六朝書、章草のそれぞれの要素を練り上げた独自の書風を作り出した。右は敬仰作品（複製品）

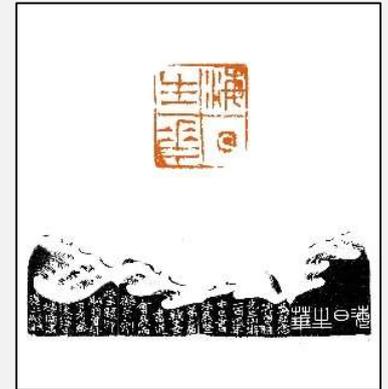


出品者一覧

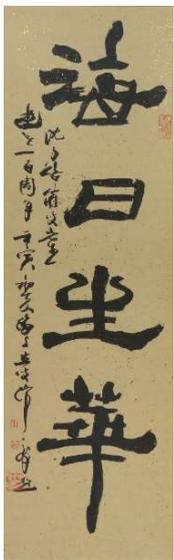
日中両国から合計 80 点を出品しております。中国側からは張海・中国書法家協会名誉主席、蘇士澍・中国書法家協会名誉主席、韓天衡・西泠印社副社長など、日本側からは星弘道・全日本書道連盟前理事長、杭迫柏樹・日展名誉会員など錚々たる書家の方々が、沈曾植翁の詩などの書作品を出品しております。また、群馬県選出の衆議院議員である福田達夫、中曽根康隆の両氏からも特別に出品していただきました。

- <題字・主題刻印> 蘇士澍 韓天衡 郭同慶 姜熊烽
- <敬仰作品> 沈曾植(複製品)
- <名誉会長・名誉副会長作品> 張海 蘇士澍 王運天
- <特別招待作品> 福田達夫 中曽根康隆
- <招待作品・日本書道家> 星弘道 杭迫柏樹 (以下 50 音順) 赤平泰処
有岡陵崖 海野濤山 尾崎蒼石 河内君平 中島春緑 中村伸夫 山下方亭
吉澤鐵之 (以下在日華人書法家) 晋鷗 高小飛
- <招待作品・中国書法家> (年齢順) 周志高 王冬齡 童衍方 劉一聞
崔志強 鮑賢倫 高智群 張雲龍 劉彦湖 王丹 張建才 李俊 張耀偉 潘善助
徐慶華 祁碩森 戴家妙 顧村言 趙軍
- <顧問・名誉理事・会友作品> 日箇原徹 劉書明 李忠和 方亜平 呂軍
蔣龍 宋唯源
- <役員・会員作品> 郭同慶 姜熊烽 中島嘉瑛 藤村遠山 山田嘉洲 榎田嘉悦
田中嘉斎 孫晶晶 張嘉心 森田嘉泉 郭嘉慧 蔡嘉楓 加藤嘉葉 濱田嘉恵 朱嘉之

姜熊烽 (主題刻印)



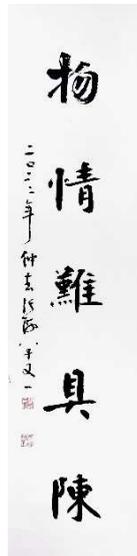
韓天衡(題字)



郭同慶(題字)



張海



星弘道



杭迫柏樹



連絡先：翰墨書道会 藤村 090-6348-6799 山田 090-5179-6524